

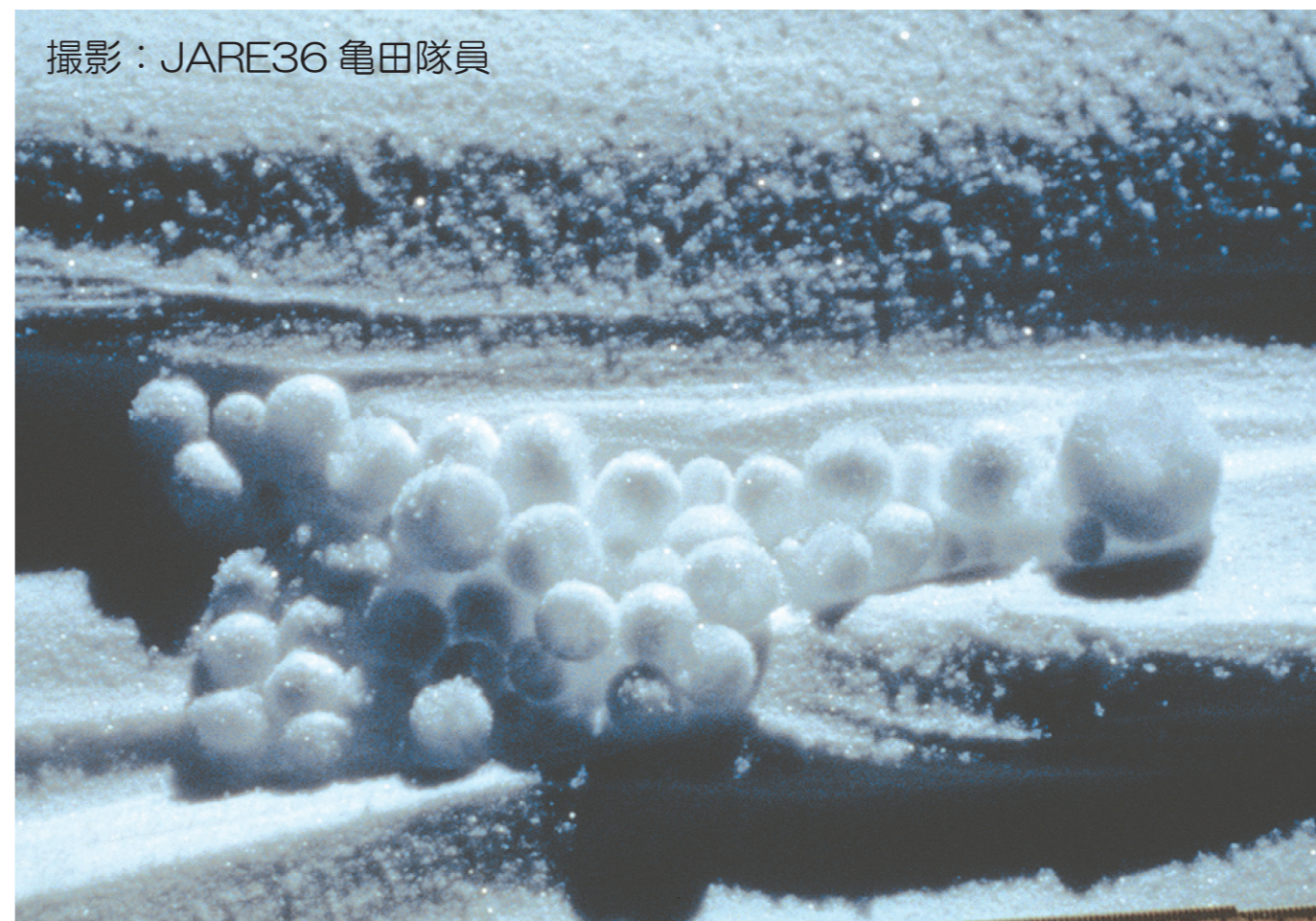


雪と氷の不思議な現象①

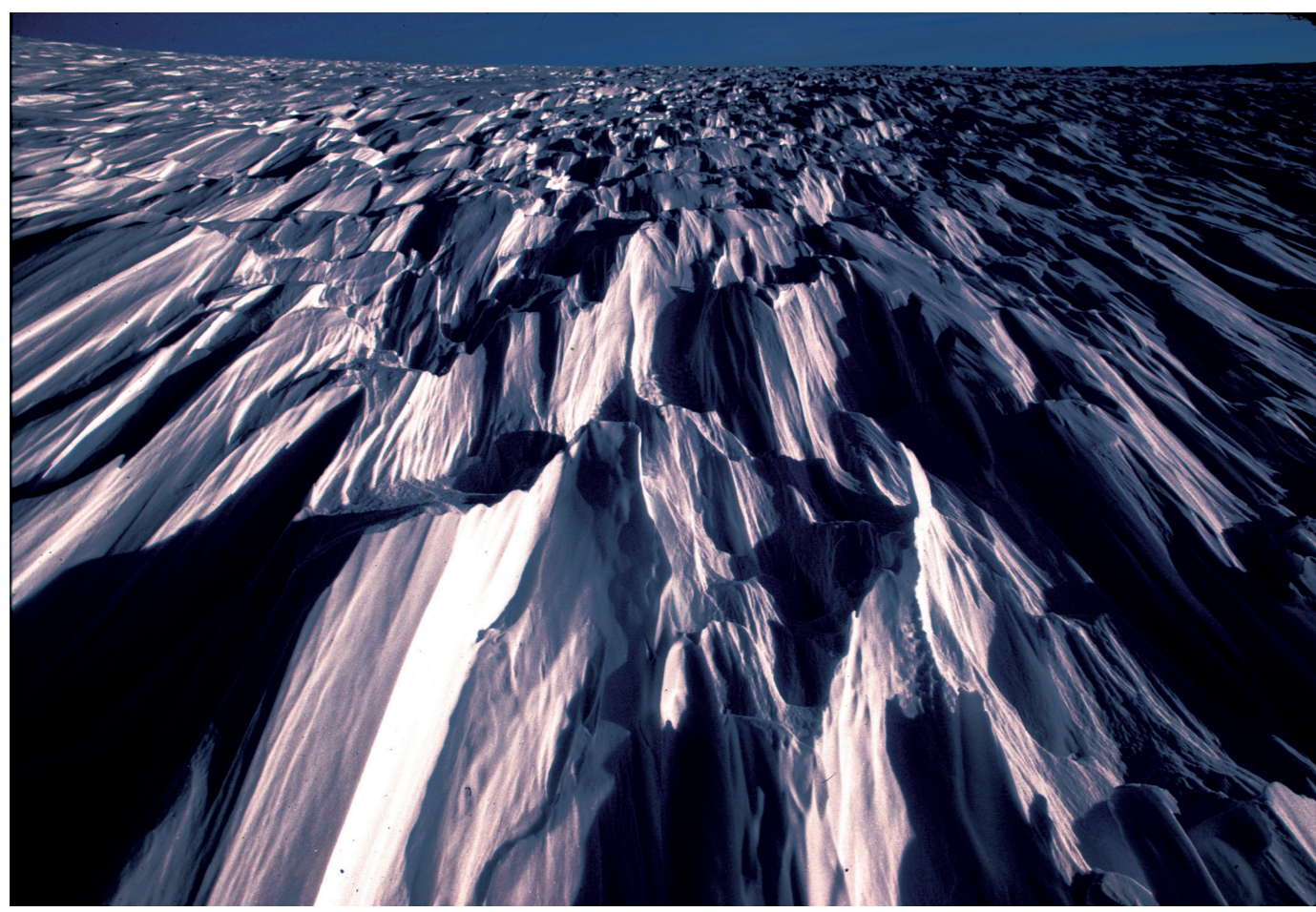
極地は、雪と氷だけの単調な世界ではなく、実はめずらしい現象がいっぱい！

雪まりも ▶

自然にできた雪玉。1995年、ドームふじ基地付近で発見され、「雪まりも」と名付けられました。直径は3cm程度。雪面上にできた綿状の霜が、風によって転がり、からみ合っわたじょう しもて形作られると考えられています。



撮影：JARE36 亀田隊員



◀ サスツルギ

ロシア語で「風紋」を意味します。積もったばかりの雪が強い風ふうもんにけずられて、とがった雪もようができる現象で、風が一定方向にふく場所で見られます。風上側がかさ かみ がわすどくとがり、風下側かさ しも がわに向かって筋すじのようにのびているのが特徴とくちょうです。

クラック ▶

海氷にできた、幅数はばcm～1mのひび割れのこと。潮しおの満ち引きによって海氷にできる割れ目のことは、タイドクラックと言います。クラックの下は冷たい海のため、落ちると命にかかわります。



撮影：JARE55 今泉隊員



撮影：JARE55 金田隊員

◀ 氷丘脈（ひょうきゅうみやく）

海氷の板がぶつかり合い、のり上げたりして、山脈のようになったものです。

パドル ▶

春から夏、海氷上の雪や氷がとけてできた水たまりのことです。とけた水は光を吸収しやすいため、太陽熱でさらに氷をとかします。ときには底まで氷がとけてしまい、「底なしパドル」と呼ばれる大きな穴になることがあります。とても危険な場所です。



撮影：JARE55 今泉隊員